週間天気予報解説資料

2026年11月16日10時00分発表
気象庁

予報期間　11月17日から11月23日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

・19日から21日にかけて、発達した低気圧がオホーツク海からカムチャツカの東に進み、日本付近は西高東低の冬型の気圧配置となる。
・22日から23日にかけて、高気圧が大陸から日本付近を通って、日本の東へ移動する。

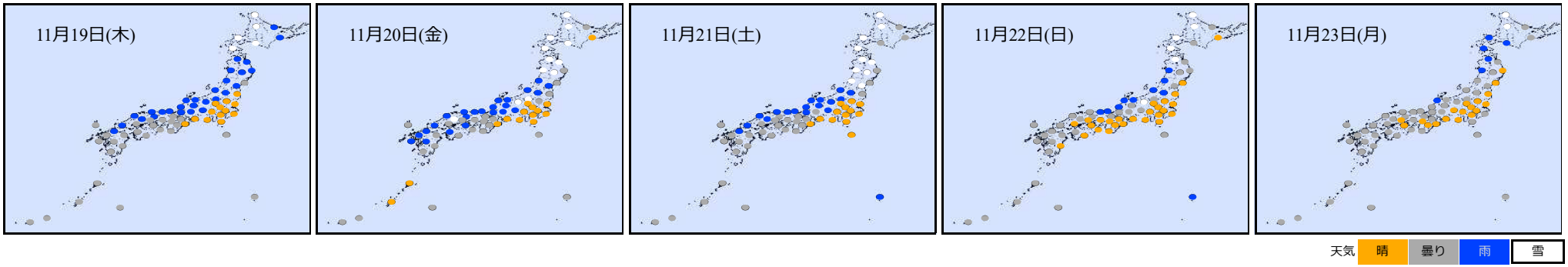
＜防災事項＞　11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

・21日頃にかけて、北日本、東日本、西日本では、発達する低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達の程度等によっては、大荒れや大しけ、警報級の大雪となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

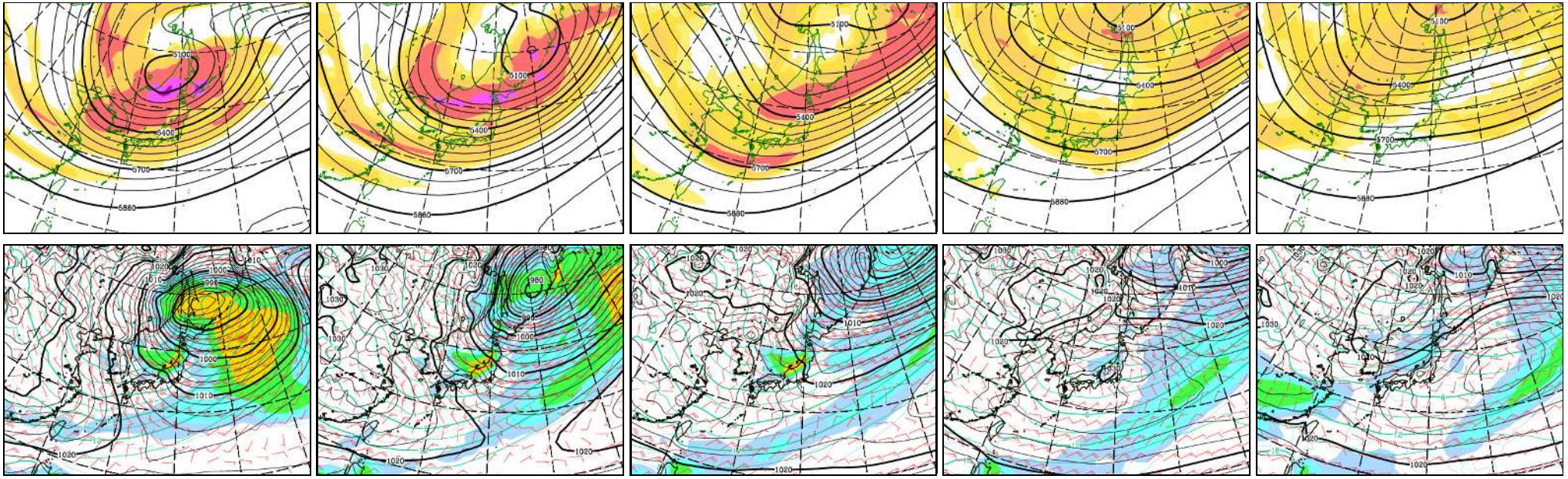
◆10時時点の３～７日目の天気予報案　(11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



・北日本と、東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
・東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れの日が多い。
・沖縄・奄美は雲が広がりやすいが、20日は晴れる所がある。

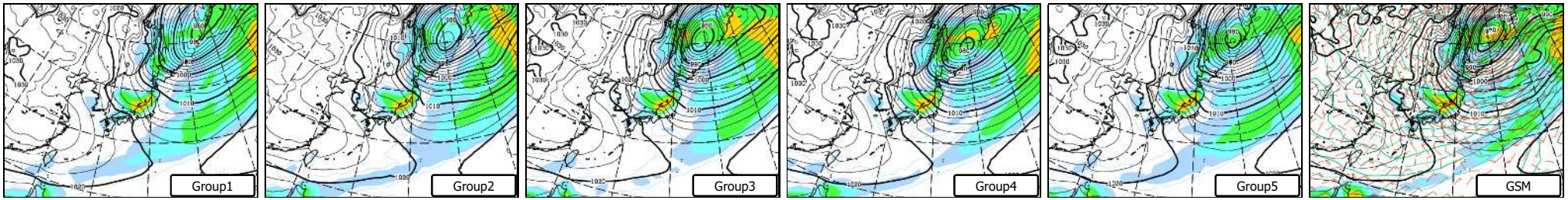
◆アンサンブル(ENS)平均予想図　上図：500hPa高度線、渦度　下図：海面気圧、地上風、850hPa気温、前24時間降水量(21時)

11月19日(木)　11月20日(金)　11月21日(土)　11月22日(日)　11月23日(月)



渦度(10^{-6}/sec以上)　0　10　20　40　80　100　風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆11月20日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSM予想図　海面気圧、地上風及び850hPa気温(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



風速　10KT　50KT　降水量(mm/24hours以上)　2　4　8　16　32　64

◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

・最新のアンサンブル資料（ENS）は、20日の5400m付近のトラフが日本付近で浅くなり、反対に中国東北区付近では深まった。これらが22日にかけて東進してくる予想となっている。
・地上では、19日から21日にかけて、オホーツク海からカムチャツカの東へ進む低気圧の発達の程度はやや弱まった。
・各モデルにおいて、21日までの予想はおおむね揃っているが、日本海に表現される収束帯に伴う降水・降雪域がかかる日本海側の地域に、若干の差が見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

・予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。